

【EMD.GR.JP 掲載のニュース】 (12月11日～12月22日分)

ソニー、OpenMG Jukebox (for Net MD) モジュールパッチソフトを公開

ソニーは、OpenMG Jukebox (for Net MD) モジュールパッチソフト Ver 1.1 For Windows 98/98 Second Edition/Millennium Edition を公開した。

このモジュールパッチソフトは、Windows 98/98 Second Edition/Millennium Edition が標準インストールされたパソコンに「OpenMG Jukebox Version 2.2」をインストールして使用する場合、Net MD 機器を USB 接続した状態でハードディスク上の楽曲のコンテンツを再生すると、パソコンが動作しなくなる不具合を修正するもの。

ソニーのサイト上から無償でダウンロード可能となっている。ファイルサイズは 71KB。
(12/22)

パイオニア、HDD 搭載カーオーディオの CDDDB 更新を 2 月に延期

パイオニアは、「DEH-P999HDD」に内蔵されているハードディスクに収録されている Gracenote CDDDB データベースの第 1 回更新時期を 2002 年 1 月予定から 2002 年 2 月中旬頃開始の予定に変更すると発表した。

DEH-P999HD は、CD プレーヤー、HDD、メモリスティックスロット、AM/FM チューナ、アンプ部などで構成された 1DIN ユニット。

CD リッピング時にハードディスクに収録されている CDDDB データベースから自動でタイトル情報を付加することができる。

この CDDDB データベースを最新の CD に対応させるには定期的な更新が必要となる。

その更新方法は、Gracenote CDDDB 更新専用のホームページからアップデート・データをダウンロード。更新したデータベースをマジックゲートメモリスティックを介して DEH-P999HDD に取り込む。1 回あたりのア

ップデート・データの容量は 10MB 程度。

更新する際に必要なアプリケーションソフトもホームページ上で無償配布の予定。このアプリケーションソフトの対応 OS は Windows 98SE /Windows 2000/Windows Me。

(12/22)

ビットキャット、1Gbps のインターネット接続サービスを提供

ビットキャットは、三井不動産が分譲した超高層マンション「センチュリーパークタワー」において、各住宅まで通信速度 1Gbps のサービスを、戸数を限定して提供すると発表した。

ビットキャットでは、インターネットから基幹網まで 1Gbps のネットワークを構築しており、今回のサービスはそのネットワークをユーザー宅まで引き込んだもの。

料金は 1 世帯あたり月額利用料 18,000 円、初期費用 98,000 円で、2002 年 1 月中のサービス開始を予定している。

センチュリーパークタワー内では全戸対象に bitcat100MEGA ホームプランが提供されており、このうち 30 戸に限定して bitcat 1GIGA ホームプランを供給する。

なお、技術者等インターネットの専門知識を持っているユーザーを主な対象としている。

(12/21)

SBF、ブロードバンド配信を支援するトータルソリューションの提供を開始

ソフトバンク・ファイナンス (SBF) は、ブロードバンド配信サービスの提供に必要なあらゆるインフラと機能を一元的に提供する「BBBrain(ビービーブレイン)」を提供開始すると発表した。

「BBBrain」の主な提供サービスは、大容量コンテンツの制作、配信作業から、それらのコンテンツを利用するユーザーの会員認証

および利用料の決済、およびコンテンツ配信企業の口座管理・出納代行等。

具体的には、配信サービス分野でストリーミングコンサルティング、ストリーミングインテグレーション、Live 配信・On Demand 配信、運用サービス分野で会員管理・認証サービス、決済サービス(クレジットカード・プリペイドカード)、口座管理サービス、出納サービス、Live 現地撮影、Web ホスティングサービス、エンコーディングサービス、ブロードバンドコンテンツ保管、圧縮技術・機能拡張、運用監視、プロモーションサービスが用意されている。

コンサルティング、インテグレーションサービスについてはトバックスと業務提携、各顧客企業のニーズに応じた配信環境を実現する。

コンテンツ配信に関しては、KDDI ストリーミングサービスを利用し、KDDI の大容量バックボーンに接続されたストリーミングサーバの活用により、安定したブロードバンドサービス提供を実現する。

決済サービスについては、SBF グループのサイバーキャッシュがブロードバンド時代のコンテンツ課金に最適な高機能のクレジットカード決済ソリューションを提供、その他にウェブマネーの「Web Money」、KDDI の「KDDI スーパーワールドカード@caj」、日本カードセンターの「@QUO」といったプライベート型の決済サービスも利用可能としている。

SBF は、これら決済を一元管理・入出金の代行を行うと共にコンテンツ課金管理・会員データ管理・認証を行う。

既に SBF では、ライバルズが提供するイタリアプロサッカーリーグ「セリエ A」の試合映像配信をメインコンテンツとするスポーツ映像配信サービス「BroadBand Rivals」の会員管理システム、認証システム、課金・決済システムのインテグレーションを行っており、同サービスにおける入金、支払処理等の口座管理業務を請け負っている。

さらに、SBF ではソフトバンク・インベストメントが運営するベンチャーキャピタルファンドの出資先企業でブロードバンドコンテンツの作成および配信に関する技術力を有する企業との提携も検討しており、より高品質

のブロードバンドサービスの実現を目指して
いくとしている。

(12/21)

NTT com、「ライセンサー認証プラットフォーム」サービスの提供を開始

NTT コミュニケーションズ (NTT Com) は、コンテンツに著作権者と正当な購入者を識別する情報等を電子透かしとして埋め込み、それを正しく検知できる「ライセンサー認証プラットフォーム」サービスを開発、2001年12月21日から提供を開始すると発表した。

このプラットフォームは、セーフティバスの認証技術と NTT サイバーソリューション研究所が開発した電子透かし技術に応用したものだ。

コンテンツ事業者(店舗)が販売するデジタルコンテンツ(静止画)をプラットフォームが管理しており、セーフティバス上で確実に購入者の認証を行うことで、著作権情報に加えて、購入状況(日時、店舗、正当な購入者を識別する情報等)をコンテンツの販売時点でリアルタイムに暗号化し電子透かしとして埋め込む。

これにより、従来の著作権情報のみを埋め込む電子透かしよりも不正コピーに対して高い抑止力を発揮するほか、店舗側での事前の電子透かし埋め込み作業も省略できるとしている。

また、コンテンツ提供者や店舗等が、コンテンツの不正利用が疑わしいサイト(コンテンツ)を発見した場合、このプラットフォームのWebサイトからNTT Comに調査を依頼できる。

NTT Com は当該コンテンツの電子透かしを抽出し、著作権者と正規の購入状況を明らかにする。このライセンサー調査では、対象となるコンテンツの一部が切り取られた場合や、加工された場合でも電子透かしを抽出することが可能となっている。

このサービスは、NTT Com が2001年11月1日からインターネット利用者向けに提供開始している認証決済プラットフォーム「セーフティバス」の高付加価値サービスとして

提供される。

ファーストユーザとして、毎日新聞社が自社の報道記事(写真)約6,000点を2001年12月21日からこのサービスを利用して販売する。セーフティバス会員は、同記事(写真)をセーフティバスが提供する電子マネー「ちょコム」により、1点50円で簡単かつ安全にダウンロードすることが可能となる。

NTT com では、ライセンサー調査の運用状況等を確認しながら、コンテンツ事業者との提携を進め、今年度内には4~5事業者の獲得を目指すとしている。

(12/21)

ソニー、日本テレコム、次世代無線インターネットアクセスの共同実験を開始

ソニーと日本テレコムは、次世代無線インターネットアクセス技術の確立に向けて、共同でホットスポットサービスをベースとした実証実験を、ゲートシティ大崎にて2002年2月より約1年間実施すると発表した。

今回の実証実験では、次世代無線インターネット技術として2.4GHz帯では初のOFDM方式(Orthogonal Frequency Division Multiplex:直交周波数分割多重方式)を採用する。

これにより、屋内はもとより、屋外においてもより広範囲でのホットスポットサービスを可能にし、通信環境の安定性向上が期待されるとしている。

また、使用するチャンネルの周波数帯域幅を切替える事により、1チャンネル当たり最大18Mbpsで7チャンネルを、1チャンネル当たり最大36Mbpsでは3チャンネルを配置するなど、異なる帯域幅での通信実験も行う予定。

なお、バックボーン回線には、日本テレコムが所有する光ファイバー網による大容量高速回線を利用する。

(12/20)

米 pressplay、会員制音楽配信サービスを開始

米 pressplay は、インターネットベースの会員制音楽配信サービスを2001年12月19日から提携する米 Microsoft のMSN Music や米 Roxio、米 Yahoo!のサイトを通じて提供開始すると発表した。

音声圧縮方式にはWMAを採用、利用するにはWindows Media Player7.1以降が必要となる。

試聴用のストリーミングファイルは20もしくは32kbpsのビットレート、ダウンロードファイルは128kbpsでエンコードされている。

配信される楽曲はWindows Media Technologiesの著作権管理技術で保護されており、RoxioのCD-R書き込み技術により、料金プランによって回数制限ながらCD-Rへの書き込みも可能となっている。

また、pressplayのSync/Restore機能により、家庭用、仕事用PC間での楽曲の共有やHDDのクラッシュに対する救済が可能となっている。

料金プランは以下の4つに加え、14日間無料で試用できるサービスを提供する。無料コースでは、200曲のストリーミング配信と20曲のダウンロードが利用可能。

- ・基本プラン:月額9.95ドル、ストリーミング300曲、ダウンロード30曲
- ・シルバープラン:月額14.95ドル、ストリーミング500曲、ダウンロード50曲、CD-Rへの書き込み10曲
- ・ゴールドプラン:月額19.95ドル、ストリーミング750曲、ダウンロード75曲、CD-Rへの書き込み15曲
- ・プラチナプラン:月額24.95ドル、ストリーミング1000曲、ダウンロード100曲、CD-Rへの書き込み20曲

また、オープン記念キャンペーンとして、有料プランに加入後90日間、シルバープランのサービスを基本プランの料金で利用できる。

なお、プランの中で使い切れなかった曲数制限は次月に持ち越すことはできない。さらにCD-Rへの書き込みはインターネットに接続している必要があるほか、月にアーティスト当たり2トラックまでと制限されている。

pressplay は Sony Music Entertainment と Universal Music Group の合弁事業。2社に加えて、EMI Recorded Music、Madacy、Matador、Navarre、OWIE、Razor & Tie、Roadrunner、Rounder、Sanctuaryといったレーベルが楽曲を提供する。

現時点では米国内のみのサービスとなっているが、海外へのサービス展開も予定されている。

(12/20)

米 BMI、MSN Music と Yahoo! に 450 万曲をライセンス

米国の音楽著作権管理団体 BMI は、Microsoft の「MSN Music」および米 Yahoo! と、長期的な楽曲のライセンス契約を結んだと発表した。

この契約により、両社は BMI が著作権を管理する約 450 万曲もの楽曲と音楽作品を配信できるようになる。

この契約では、両社は配信実績のデータと共に著作権使用料を一括して BMI に支払う。BMI では、両社からの配信実績データを基に作詞家、作曲家、音楽出版社などに著作権使用料を分配する。

BMI は 1940 年に設立された音楽著作権管理団体。約 35 万もの作詞作曲家や音楽出版社を代表して著作権使用料の管理を行っている。

(12/20)

川鉄商事、米 Sigmatel の携帯プレーヤー向け LSI を販売

川鉄商事は、米 Sigmatel の新型オーディオ信号復号化 LSI「D-Major STMP3410」の販売を開始すると発表した。

STMP3410 は、米 Sigmatel のデコーダチップシリーズ D-Major の第 2 世代に当たるチップセット。USB インターフェースを内蔵し、ADPCM フォーマットによるボイスレコーディング機能も搭載している。

音声圧縮方式は MP3、WMA、AAC、さらにアップグレードによる将来の圧縮方式にも対応する。WMA の著作権管理方式にも対応している。

記憶媒体についてはフラッシュメモリ、Smart Media、MMC、SD カード、コンパクトフラッシュ、SDRAM、CD、IDE インターフェースをサポートする。

消費電力も低く設計されており、単 3 電池 1 本で 35 時間の動作が可能となっている。

(12/19)

USB On-The-Go 規格が正式リリース

USB の標準化団体である USB Implementers Forum, Inc.(USB-IF) は、パソコンを介さずに周辺機器同士の直接接続を可能にする「USB On-The-Go」仕様の正式版(Rev. 1.0)を発表した。

USB は、PC がホスト、周辺機器がスレーブという役割が明確に分かれていた。そのため、USB を介したデータのやり取りには必ず PC を必要としていた。

これに対し、USB On-The-Go は周辺機器同士が USB ケーブルを介してデータをやり取りできるようにする規格。この機能を実現するために、2 つの機器を接続した後にホストとスレーブの役割分担を交換する「Host Negotiation Protocol(HNP)」や、電源供給を管理する「Session Request Protocol(SRP)」を規定している。

2002 年 1 月 22 日には、USB-IF が機器メーカー向けのセミナー「On-The-Go Training Seminar」を日本・東京で開催する予定。

(12/19)

エプソン、USB2.0 デバイスコントローラを発表

セイコーエプソンは、パソコン機器の次期インターフェースである USB2.0 に対応したコントローラ「S1R72003」を開発、USB-IF による認証試験に 2001 年 11 月 26 日に合格したと発表した。

これにより「S1R72003」は USB-IF 参加リストに加えられ、USB2.0 の認証ロゴを使用できる。

「S1R72003」の主な特徴は以下の通り。

- ・汎用バス接続タイプの SIE(Serial Interface Engine)を内蔵
- ・UTMI(USB2.0 Transceiver Macrocell Interface)規格に準拠した、低電力タイプの自社開発トランシーバを内蔵

これらの特徴により、USB2.0 インターフェースを有するパソコン周辺機器(プリンタ、スキャナ、外部記憶装置)のコントローラとして最適としている。

サンプル価格は 1500 円。量産は 2002 年 4 月以降、月産 10 万個を計画している。

(12/19)

NEC、周辺機器向け USB2.0 対応コントローラチップを発表

NEC (NEC エレクトロニクス) は、PC の汎用コントローラである USB2.0 と PC 周辺機器の信号を相互変換する USB2.0 汎用コントローラ「μ PD720122」を製品化したと発表した。

NEC ではこれまで、主にホスト側の製品群として USB2.0 に対応したホストコントローラ「μ PD720100A」、ハブコントローラ「μ PD720110A」、PHY(物理層)「μ PD720120」、IDE/ATAPI インターフェースを持つ「μ PD720121」などを発売してきた。

今回の製品「μ PD720122」は、周辺機器に USB2.0 インターフェースをより簡単に取り込むために製品化したもの。

主な特徴は以下の通り。

- 1.USB2.0に準拠した最大 480Mbps という高速データ転送が可能
- 2.システムインタフェースとして汎用メモリバス、ローカルバスを搭載し、幅広いシステムで高速なデータ転送を実現
- 3.PHY(物理層)もチップに内蔵しているため、1チップで USB2.0 インタフェースブロックが実現可能

サンプル出荷は 2002 年 1 月開始予定。サ

ンブル価格は、開発キット(ET-0138)とセットで1万円、チップのみは5000円。量産は2002年2月以降、月産100万個を計画している。(12/18)

米 Verance、三洋電機のプレーヤーに同社の電子透かし技術が採用されたと発表

米 Verance は、三洋電機の携帯型デジタルオーディオ録音プレーヤー「SSP-PD77R」に同社の電子透かし技術が採用されたと発表した。

三洋電機の「SSP-PD77R」は、PC を使わずに各種オーディオコンテンツをセキュアマルチメディアカード (Secure MMC) に録音することができる携帯型プレーヤー。日本では2001年12月始めから発売されている。

今年初めに三洋電機は TI の DSP プラットフォームに最適化された Verance の電子透かし技術のライセンスを受けており、それを基に今回の製品は開発された。

Verance では TI の DSP 以外にも Intel の Pentium や ARM のプラットフォームにも同社の電子透かし技術を最適化しており、SDMI 準拠のデバイスを市場に提供しようとしている機器メーカーやソフトウェア開発メーカーに提供している。(12/18)

米 SONICblue、ハイエンドデジタルミュージックサーバーを発表

米 SONICblue は、ハイエンドの家庭用デジタルミュージックサーバー「Rio Advanced Digital Audio Center」を発表した。

Rio Advanced Digital Audio Center は、40GB の HDD、CD-R/RW ドライブを内蔵し、音楽 CD からリッピングした MP3 ファイルを保存できる。

MP3 ファイルのビットレートは 320kbps までサポートし、WMA ファイルの再生も可能となっている。

HDD 内には Gracenote CDDDB Music Recognition Service が搭載されており、保存した楽曲の曲名、アーティスト名、アルバム

名などの情報を自動的に付加される。

インターフェースには、フロントパネルと背面合わせて USB ポートを3つ搭載、PC や Rio 携帯プレーヤーと接続し楽曲の転送が行える他、キーボードやジョイパッド、イーサネットアダプタも利用できる。

また、HomePNA ポートも備え、家庭内の電話回線を通して8台までの Rio Audio Center と接続、保存している楽曲をストリーミングで転送できる。

このほか、56k モデムも内蔵しており、CDDDB データの更新やソフトウェアのアップグレードをインターネット経由で行うことができる。このポートはブロードバンドにも対応する。

既に米 SONICblue のショッピングサイトで予約を受け付けており、価格は\$1,499.95。出荷開始は2002年1月末になる予定。予約分には通常\$199.95の Rio Audio Center が1台無料で付属する。(12/18)

NTT、丸の内にブロードバンド体験スペースを設置

NTT は2001年12月17日、東京都千代田区丸の内のおびビル内に、20歳代から30歳代の働く女性を対象にしたブロードバンド無料体験スペース「LuceMare (ルーチェマーレ)」を期間限定で設置した。

LuceMare では、NTT の HIKARI ブロードバンドサービス「B フレッツ」や無線ネットワーク「AWA」を利用したブロードバンド環境で、旅行情報や映画のプレビューなどストレスのない動画コンテンツを体験できる。

また、大画面スクリーンを使い、HIKARI ブロードバンドを駆使した HIKARI イベントを実施するイベントスペースも設けられている。

営業時間は通常、平日が午前11時30分～19時30分、土曜日が午前11時30分～17時30分。日曜日・祝日および2002年1月1日～1月6日は休業。なお、12月25日から31日まででは休みなく、終了時間も20時30分までとなっている。

スペースは2002年1月31日までの期間限定の開設で、利用時間に関係なく無料で利用できる。

(12/17)

仏 Thomson と米 Gracenote、デジタルミュージックソリューション分野で提携

仏 Thomson multimedia と米 Gracenote は、Thomson が開発した MP3 の上位互換バージョン「mp3PRO」と Gracenote の音楽識別サービス「CDDDB Music Recognition Service」を組み合わせたデジタルミュージックソリューションを開発、提供することで提携したと発表した。

今回の両社提携により、2,000人以上の CDDDB を利用した商用メディアプレーヤー開発者が mp3PRO のエンコードおよびデコード技術を利用できるようにする。Gracenote は CDDDB を統合した mp3PRO エンコーダライセンスと開発キット(SDK)を提供し、ライセンスされたソフトウェアのアップグレードにも対応する。

さらに、非商用ソフトウェアの開発者に対しては CDDDB と mp3PRO デコーダ、エンコーダのパッケージをライセンス料無料で提供する。また、商用アプリケーションでも mp3PRO デコーダはライセンス料を無料にする。

これら開発者向けの製品群は2002年第一四半期末までに提供されるようになる予定。(12/15)

日立、マルチメディアカード対応インターフェースと暗号処理機能 USB インターフェースを内蔵した 16 ビットマイコンを発表

日立製作所は、マルチメディアカード (MMC) 対応インターフェースとコンテンツ保護に対応した暗号演算器を搭載、さらに USB インターフェースと 256KB のフラッシュメモリを1チップに内蔵した F-ZTATM マイコン「H8S/2158F」を製品

化したと発表した。

「H8S/2158F」は、高性能 16 ビット CPU コア「H8S/2000」を搭載し、MMC インターフェース、暗号演算器、USB インターフェース等を 1 チップに集積した製品。

MMC インターフェースは、MultiMediaCard モードと SPI (Serial Peripheral Interface) モードの両モードに対応し、2 枚のマルチメディアカードの制御が可能。

さらに暗号演算器は、「ケータイ de ミュージック」規格に採用されている「UDAC-MB」暗号方式に対応、25MHz の動作周波数で高速な暗号処理を行なえることから、「UDAC-MB」によるコンテンツ保護を組み込む機器に最適となっている。

また、USB 規格 Ver1.1 に対応した USB ファンクションを内蔵。コントロール、インタラプト、バルク転送をサポートし、最大 12Mbps の高速転送が可能。これにより、PC からの大容量データを本インターフェースで高速に受け取り、マルチメディアカードに書き込むことが可能となっている。

パッケージは 112 ピンプラスチックの CSP、100 ピンプラスチックの TQFP を用意。サンプル価格は各 1,800 円。2002 年 2 月からサンプル出荷開始予定。

応用製品例としてはオーディオプレーヤ、メモリーカードリーダー/ライター、デジタルカメラ、電子辞書などをあげている。

(12/14)

米 Microsoft、Windows XP 用「Windows Media Bonus Pack」発表

米 Microsoft は、Windows XP のデジタルメディア機能を強化するパッケージ「Windows Media Bonus Pack」を発表した。同社サイトから無料でダウンロードできる。

内容としては、MP3 ファイルを Windows Media Audio (WMA) に変換する「Plus! MP3 Audio Converter LE」。これは「Plus! for Windows XP」に含まれるものの機能縮小版になっている。

また、「Windows Media Player for Windows XP Powertoy」には、タスクバーからワンクリックで Windows Media Player にアクセスできる「Windows Media Player Tray Control」、 「Media Library」や「My Music folders」を整理、更新するツール「Media Library Metadata Update Wizard」、Excel にプレイリストを書き出すツールなどの機能が含まれる。

このほか、「MSN Photos」ピクチャービューワーや新しいビジュアルゼーション、スキン、音響効果や音楽クリップ、タイトルイメージなどを含むビデオ制作キット「Windows Movie Maker Creativity Kit」などが提供される。

(12/14)

ソニー、Net MD 機器を接続した状態で不具合を公表

ソニーは、「OpenMG Jukebox Ver.2.2」または「SonicStage LE for VAIO Ver.1.0」を Net MD 機器が接続された状態で利用する場合に不具合が発生することを公表した。

不具合内容は、Windows 98、Windows 98 Second Edition、Windows Millennium Edition が標準インストールされた「バイオ」に、「OpenMG Jukebox Ver.2.2」(アップグレードを含む)または「SonicStage LE for VAIO Ver.1.0」をインストールして使用する場合、Net MD 機器を USB 接続した状態で HDD 上の楽曲コンテンツを再生すると、コンピュータが正常に動作しなくなるというもの。

回避策として、Net MD 機器を接続する場合はコントロールパネルよりオーディオの設定から「パフォーマンス」画面の「ハードウェア アクセラレータ」を「なし」に設定することを案内している。

なお、問題を改善するプログラムのご案内につきましては近日中に掲載する予定としている。

(12/14)

米 Mediafour、Windows ユーザー向け iPod クライアントソフトの Technology Preview 1 を公開

米 Mediafour は、アップルのデジタルオーディオプレーヤー「iPod」を Windows PC と接続できるようにするためのクライアントソフト「XPlay」の Technology Preview 1 を公開した。

XPlay は、11 月に開発を発表していたアップルのデジタルオーディオプレーヤー「iPod」を Windows PC と接続できるようにするためのクライアントソフト。「XPod」の名称は変更された。

今回公開された Technology Preview 1 では、Windows PC に接続された iPod が外付け HDD として認識され、あらゆる形式のデータファイルの読み書きが可能になる。

また、iPod に収録された楽曲ファイルは「XPlay Music」フォルダとして表示され、Windows Media Player などプレーヤーソフトウェアで再生することができる。さらに Windows Media Player からは iPod はポータブルデバイスとして認識される。

対応 OS は、Windows Me、98、95、NT 4.0、2000、XP。iPod との接続インターフェースである FireWire (IEEE1394) も必要。

ただし、まだアプリケーションソフトを介して楽曲を転送することはできず、データが壊れたり消失する危険性についても注意を促している。また、2001 年内に Technology Preview 2 をリリースする予定としている。

(12/13)

米 Roxio、pressplay に CD-R 書き込み技術を提供

米 Roxio は、会員制音楽配信サービスを準備中の pressplay に対して、CD-R 書き込み技術を提供すると共に、Roxio 自らも pressplay ベースの音楽配信サービスを展開すると発表した。

Pressplay は 2001 年末までに米国内で MP3.com、MSN、Yahoo! を通じてサービスを開始する予定。これら pressplay のユーザーは楽曲のストリーミング、ダウンロードと

共に CD-R への書き込みも行うことができる。

標準で提供されるのは4倍速までの書き込みで、それ以上(24倍速まで)の書き込みを要望するユーザーはRoxioのサイトでプレミアムCDを購入する必要がある。すでにRoxioのEasy CD Creator 5 Platinumパッケージを所有しているユーザーは、そのフル機能をpressplayで利用することができる。

また、Roxioでは自らのサイトでもpressplayをベースにした会員制音楽配信サービス「Roxio pressplay」を展開する。

pressplayはSony Music EntertainmentとUniversal Music Groupの合弁事業。2社に加えて、EMI Recorded Music、Madacy、Matador、Navarre、OWIE、Razor & Tie、Roadrunner、Rounder、Sanctuaryといったレーベルが楽曲を提供する。

(12/12)

レーベルゲート、NetMD 対応の楽曲の配信を開始

レーベルゲートは、レーベルゲート方式(Madison Player)で配信されるすべての楽曲と、bitmusic及びMusic to Uで配信されているWMT方式の楽曲が2001年12月12日より「Net MD」に対応したと発表した。

NetMDは、PCとNetMD対応機器をUSBで接続、ATRAC3形式で楽曲データをMDに高速に転送できる規格。NetMD機器で録音したMDメディアは既存のMDLP対応製品で再生できる。

対応楽曲は、エイベックスやキングレコード、ソニー・ミュージックエンタテインメントなどレーベルゲートに参加している各社の合計1720タイトル。

(12/12)

米 AOL Time Warner、MusicNet ベースの音楽配信サービスを発表

米 AOL Time Warnerは、会員制音楽配信サービス「AOL Presents MusicNet 1.0」を発表した。

AOL Presents MusicNet 1.0は2002年1月からスタートし、月額料金は\$9.95、78.000

を越える楽曲の中から月に100曲のストリーミングと100曲のダウンロードを利用できる。

楽曲はWarner Music、EMI、Bertelsmannの合弁事業であるMusicNetから提供される。BMG Entertainment、EMI Recorded Music、Warner Music Group、Zomba Recordsといったレーベルの楽曲が含まれ、クラシック、ジャズ、ワールドミュージックなど幅広いジャンルの楽曲が提供される。

(12/12)

米マイクロソフト、DVD チップメーカーが Windows Media をサポートと発表

米マイクロソフトは、Cirrus Logic、ESS Technology、LSI Logic、STMicroelectronics、ZoranのDVDプレーヤー向けチップメーカー5社がWindows Media AudioとWindows Media Videoをサポートすると発表した。

サポート対象には同時に発表されたWindows Media Technologiesの次期バージョン「コロナ」も含まれる。これにより、家電分野へのWindows Mediaの浸透を図る。

今回サポートを表明した5社は2002年からWindows Media AudioとWindows Media Videoに対応する予定。この5社を合わせるとDVDプレーヤー向けチップ市場で90%を占める。

これにより、1枚に22時間のWindows Media Audioファイルを記録したCDを再生でき、また、DVD品質の動画を記録したCDやDVD-Rを再生できるDVDプレーヤーが2002年中に登場するとしている。

(12/12)

米マイクロソフト、Windows Media Technologies の次期バージョンを発表

米マイクロソフトは、Streaming Media East 2001において、Windows Media Technologiesの次期バージョン、開発コード名「コロナ(Corona)」のプレビューを行った。

コロナでは、Fast Streamと呼ばれる技術によりWindows Mediaフォーマットでのストリーミングにおいてバッファリングによる遅延が大きく減少している。また、ストリーミング最適化の機能も含まれており、ブロードバンド環境における負荷を大幅に削減する。

また、音声と動画の圧縮規格Windows Media AudioとWindows Media Videoも改善された。音声規格ではWindows Media Audio Professionalが新たに開発され、5.1chサラウンドや、サンプリング周波数24bit/96kHzをサポートした。

Windows Media Videoの新バージョンでは、従来バージョンより約20%圧縮率を高め、HDTV相当の画質を現在のDVDの半分程度のファイルサイズで実現するとしている。

コロナに対応する最初の製品として「Windows Media Services in Windows .NET Server」も発表され、既にベータテスタやMSDN向けに配布が開始されている。

また、Coronaに対応した次期バージョンのWindows Media PlayerやEncoder、Codec、Windows Media Software Development Kit(SDK)の版が、2002年の初めに公開される予定としている。

(12/12)

「セキュアマルチメディアカード」が MMCA のコンテンツ保護・配信の標準規格として採用

日立製作所と三洋電機は、コンテンツ保護機能付き「セキュアマルチメディアカード」が、マルチメディアカードアソシエーション(MMCA)において、コンテンツ保護・配信を行う標準規格として採用されたと発表した。

「セキュアマルチメディアカード」は、標準の「マルチメディアカード」との互換性を保ちながら、ICカードで実績の有る公開鍵技術基盤(PKI)を用い、さらに暗号鍵などの秘密情報をハードウェアで保護している。また、コンテンツ保護と共にユーザーの利便性を考慮した「超流通」の機能により、「暗号化されたコンテンツ」と「暗号を解く鍵である

ライセンス」を別々に流通することができる。

この仕様に基づく「セキュアマルチメディアカード」は、デジタル音楽配信システム「ケータイ de ミュージック」の記録メディアとして既に発売されており、「ケータイ de ミュージック」は、DDI ポケットの「Sound Market(サウンドマーケット)」サービスとして2000年11月から実用化されている。

MMCA は、モバイル用途の小型・低消費電力カードの標準化、普及活動を行う団体で、1998年に14社で設立された。現在では世界各国の携帯電話や、PDA、シリコンオーディオプレーヤー等のシステムメーカ、半導体/カードメーカや、周辺ハード/ソフトメーカ100社以上で構成されている。

今回の採用により、「セキュアマルチメディアカード」が安全で柔軟なデジタルコンテンツの配信、記録、再生技術であることが裏付けられ、標準化されることにより、今後さらなる普及が期待されるとしている。

(12/11)

有線ブロード、11 月末時点の進捗を公表

有線ブロードネットワークスは、ブロードバンド事業（FTTH ブロードバンドインターネットサービス）について、2001年11月末時点の進捗状況を公表した。

これによると、Web でサービスの申込みを行なった登録数が52,383件、工事日が確定している契約者数が8,708件、回線が開通している取り付け数が3,491件となっている。

9 月末時点での数字と比べると、登録数で約4,700件、契約者数で約1,000件、取り付け数で約530件の増加となっており、取り付け数の増加は前月と変わらず、登録者数の増加には追いついていない状態が続いている。

なお、11 月には展開エリアが26 から33に増え、ユーザーカバー数も約590,000に増やしている。

(12/11)

11 月末の DSL 加入者数は 120 万超

総務省から2001年11月末時点のDSL加入者数の速報が発表された。それによると加入者数は1,204,564でこれは前月末の30.7%増。増加率は前月から39.9%の大幅減。

内訳を見るとNTT東西のフレッツADSLでの加入者が542,532、他事業者経由のxDSL加入者が残りの662,032で、NTT東西のシェアは45.0%と5.5%のマイナス。4月末以来、7ヶ月ぶりにNTT東西のシェアが50%を割った。

特にNTT東日本エリアのシェアは42.5%となり、東日本エリアで他事業者の展開が進んでいることが伺える。

(12/11)

EMD Magazine 第11号

発行 2001年12月24日

発行所 音楽配信関連情報サービス

責任編集 宮腰 温

レイアウト 株式会社アイビルダース